

方言の形成過程解明のための全国方言調査—方言分布の経年比較から何が見えてくるのか—

大西拓一郎（国立国語研究所 時空間変異研究系）

課題

方言で言語変化が発生すればもとの分布は必ず変わる。そのとき分布はどのように変化するのか。

仮説

実時間による経年比較で分布変動がとらえられ、「方言圏論」に従うなら「中央」からの放射として変動は現れるだろう。

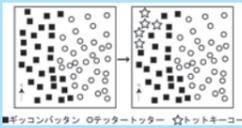
方法

過去（30～50年前＝約1～2世代前）の分布と現在の分布をできるだけ同じ条件で調査し、比較する。

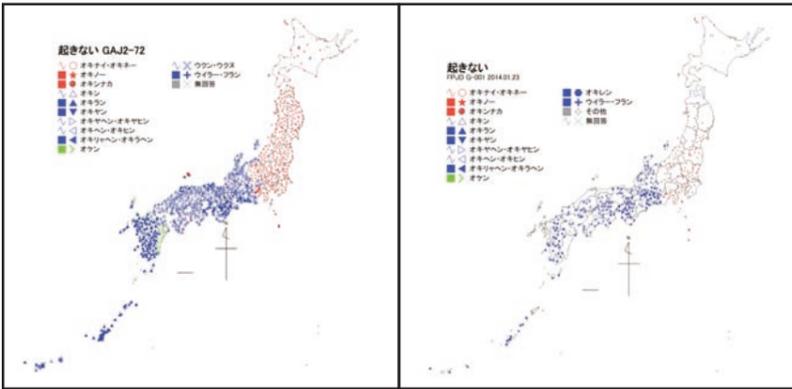
資料

過去＝『日本言語地図』（LAJ: 1960年代調査, 約50年前）, 『方言文法全国地図』（GAJ: 1980年頃調査, 約30年前）

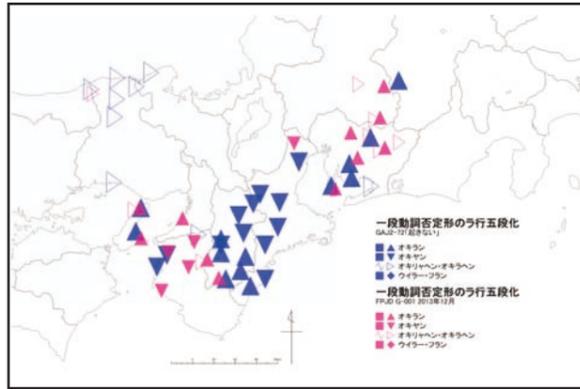
現在＝進行中の全国調査（FPJD: 2010年開始, 2014年1月340（目標500）地点DB化, 途中段階のため地点の制約に留意）



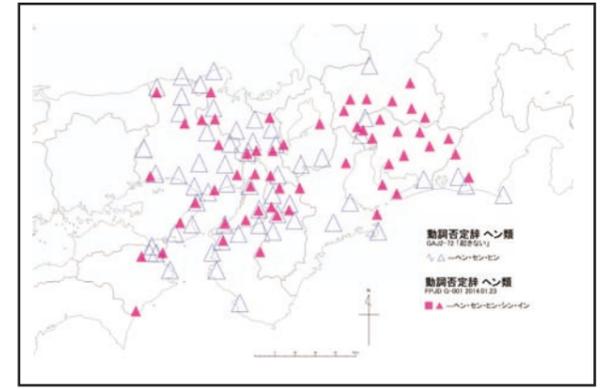
起きない（一段動詞, 否定形）



30年前（左）と現在（右）

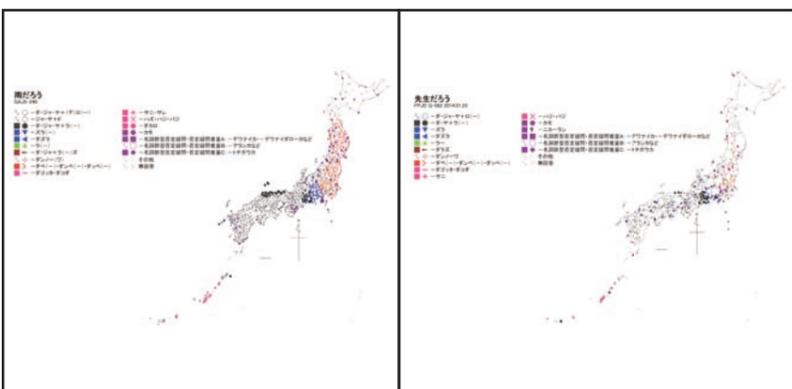


ラ行五段化の進行
分布の拡大がとらえられた。初期変動を起こした場所が都市（例えば名古屋）とは考えにくい。

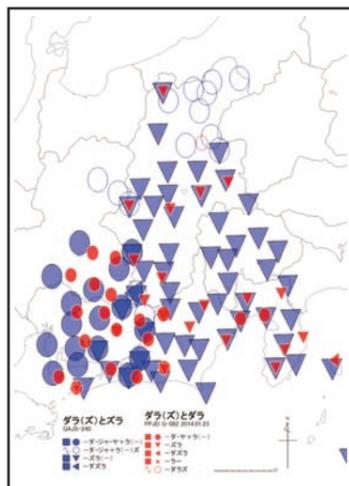


否定辞の変化
東海地方でへん類が拡大している。30年前に周辺部で変化が始まり、現在では広域に広がった。

雨だろう・先生だろう（名詞述語, 推量形）

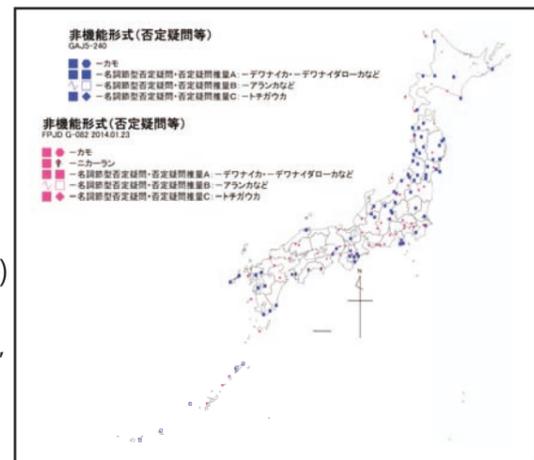


30年前（左）と現在（右）

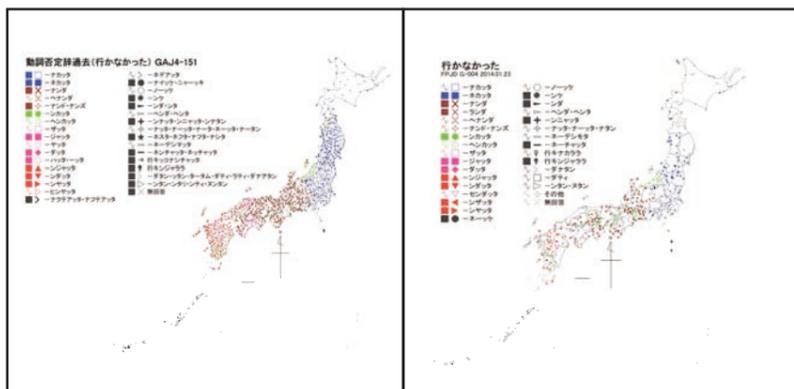


ズラとダラの変化(左)
愛知でズラを駆逐したダラが静岡に進入。ただし、連続的ではなく、飛び火的拡大を見せている。

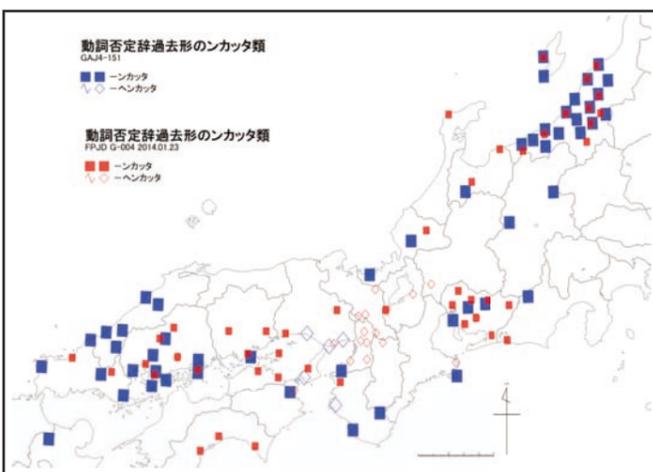
非機能形式の拡大(右)
ダロウやズラなど機能語から否定疑問(～ではないか, ～とちがうか)など非機能形式への変化傾向を示す。



行かなかった（動詞否定辞過去形）



30年前（左）と現在（右）



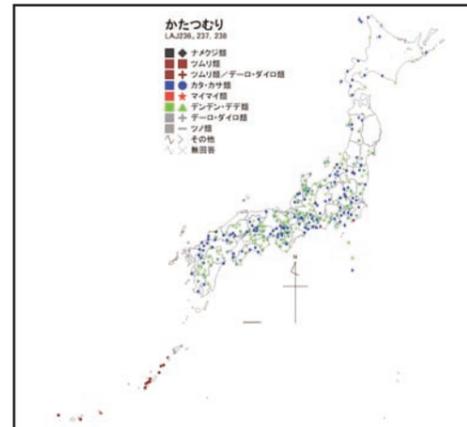
ンカッタの変化
西日本で拡大が顕著である。近畿周辺部, 愛知中部, 中国西部が発生地と見られる。一方, 新潟では領域に変動は見られず, 30年前にはすでに安定していたと考えられる。

蝸牛（かたつむり）



多様性の衰退

上がLAJに現れた50年前の分布で, 下が現在の分布。多くの場所で, 語形がカタツムリとデンデンムシに収束し(相互の分布差は不詳), 語形の多様性が衰退している。



結論

- 経年比較を通して, 方言分布の変動をとらえることは可能である。ただし, 変動は常に起こっているわけではない。
- 分布の変化は(方言圏論が想定させるような)都市を中心とした(中央からの)放射状には現れない。むしろ, 周辺部で言語変化が発生し, その後に当該の領域が埋めつくされるような変動を示している。